

### 志津地区の積雪について

下図の元データは西川町建設課出所で、月山志津温泉「清水屋旅館」の敷地内で毎日測っているものです。

「今年は多い」「今年は去年より少ない」は、冬の日常会話ですが、これらは至って感覚的で、その人の感性がもろにでるわけですが、統計的に整理すると以下のようなようになります。

志津地区の平年並みの積雪深は概ね 5m と言われますが、4m 未満が 55 年間で 10 回もあります。5~6 年に 1 回は「今年は少ない」という年があるということになります。それに対して 6m 以上になる年は 55 年間で 5 回なので「今年は例年になく多い」という年は以前から 10 年に 1 回あるということです。\*最近はむしろ安定して雪が多いと言えます。



今年も含めて、5m 前後というのが 55 年間で 40 回もある、毎年の現象に、私たちは、その日その時の微妙な感覚で、敏感に、あるいは微妙に反応しているということではないでしょうか。

さて、積雪深が 5m という意味を来園者に伝えることがとても難しいと感じています。弓張平公園内を案内していて、その都度、積雪を測り、子供達に「ここはどの位の積雪か？」と聞くと、8m とか 10m とか平気でいうわけです。雪の立場からいうなら、1m も雪が積もるといことは大変なことであって、それが安易に 10m とか言われると、多少がっかりもします。しかし、はじめはいたずらに言っていると思ったりもしましたが、冬の弓張平の独特の雰囲気、子供達に、そう言わせていると理解した方が正解かもしれません。つまり、いくら雪に慣れている西川町の子供達とはいえ、1m~2m の積雪下で生活している子供達が、4m も積もる状況に立つと、いやがおうにも体が過剰に反応し、非日常の世界に踏み込んだような感じになってしまうということだと思のです。

つまり、ここは極地だということです。町内の子供達には、極地としてある月山山麓の冬に、是非とも触れさせたいと切に思います。

